

「きれい、発見！ 堀川ものがたり館」開館記念

「ホタル舞う 堀川再生に向けた講演会&討論会」

河川法改正により、環境を重視した川づくりが求められるようになりました。自浄力をもち、人と自然が共生共存できる堀川を目指して、流域住民の英知を取り入れたいものです。

このたび、全国各地で多自然型川づくりを実践してこられ、地元中間市の環境審議会副会長でもある島谷幸宏氏をお招きし、住民参加の川づくり、自然再生といった視点からご講演・アドバイスをいただく貴重な場を用意しました。

また、堀川における治水・利水・環境・景観、そして歴史と文化を継承するために、渡辺義光氏をお招きし、川の持つあらゆる可能性を探り、堀川の将来構想作成への協働の第一歩として、この場を共有できることを願い開催いたします。

1. 開会あいさつ



2. 基調講演 講師 島谷 幸宏 氏 九州大学大学院工学研究院教授

3. 堀川の現状と課題 報告 渡辺 義光 氏 福岡県北九州土木事務所 河川砂防課長

4. 堀川に水を流そう！ 討論会

- 日時：平成19年3月18日(日)
- 開 会：13:30~16:30
堀川館は12:50より開館します。
- 場 所：福岡県折尾高等学校視聴覚室
TEL 093-691-3561
- 参加費：200円(資料代)

文化と歴史を刻み、学術的にも優れ、流域住民はもとより多くの人々から愛されてきた文化遺産の堀川。

歴史・文化的、水質・ゴミ・悪臭対策、そして堀川まちおこしの視点からも堀川に水を流すことが堀川再生の近道ではないでしょうか。

堀川の将来構想を考える時にどのようにして行政と連携し、協働作業を行えば良いのかななどの意見討論会です。

裏面あり

主催 福岡県立折尾高等学校
後援 国土交通省遠賀川河川事務所、福岡県北九州土木事務所、福岡県教育委員会
北九州市、北九州市教育委員会、中間市、中間市教育委員会、水巻町
水巻町教育委員会、その他、歴史郷土史会、ボランティア団体、環境保護団体に申請中



連絡先 福岡県立折尾高等学校 八幡西区大膳2丁目23番1号 093-691-3561
担当者 妹川征男教諭 携帯090-3418-6446

講演会 & 意見討論会の目的

本校の横を流れる遠賀堀川は、遠賀川氾濫防止と灌漑・水運開発の目的で約200年前に開削され、地域の農業、水運などに寄与してきました。しかし、昭和61年に岩瀬の伏越で分断されて以来、現在は、家庭から雑排水が流され、ゴミの不法投棄もあって悪臭が漂い昔の面影は薄れてしまっています。

本校では、堀川が、長きにわたって文化と歴史を刻み、流域住民はもとより多くの人々から愛されてきた文化遺産であることから、堀川を再生し後世に引き継がなければならないと考え、本校創立50周年を記念して各方面の方々のご協力をいただき、「きらり、発見！堀川ものがたり館」を昨年10月に開館しました。早速、地域の人たちが参観に訪れており、関心の高さをうかがい知ることが出来ます。

このたび、「きらり、発見！堀川ものがたり館」の開館を記念して、流域住民、郷土史会、環境保護団体そして行政のみなさま方と連携し、意見や情報を交換し合っ堀川再生のための復元及び自然環境保全のために知恵と工夫を出し合う場として「ホテル舞う、堀川再生に向けた講演会 & 意見討論会」を開催することにしました。多くの方のご参加をお待ちしております。

平成19年1月31日

福岡県立折尾高等学校長 佐竹則昭

<講師紹介> 九州大学大学院工学研究院環境都市部門・教授

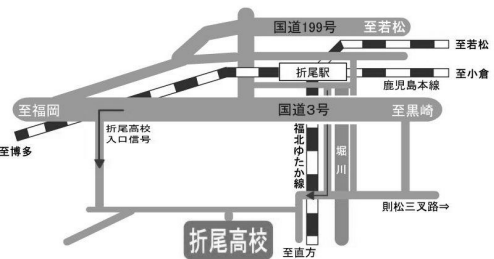
島谷幸宏 氏



NPO法人 水圏環境研究所・理事長

1955年山口県生まれ。専門は河川工学、河川環境。最近は、住民参加の川づくり、自然再生、川の風景デザイン、流域全体での治水、技術者の技術力向上などをテーマに精力的に取り組んでいる。これまでに関係した主な河川や活動は、埼玉県黒目川、神奈川県境川、多摩川河原の復元、霞ヶ浦や宍道湖の湖岸の再生、佐賀県松浦川アザメの瀬湿地再生、

嘉瀬川石井樋の復元、宮崎県北川激特事業、福岡打ち水大作戦、福岡みずもり自慢など多数。著書に水辺空間の魅力と創造(共著)、河川風景デザイン、河川の自然環境の保全と復元、豊かな川をめざして:学研 楽しく学ぶ学校シリーズ10巻、エコテクノロジーによる河川・湖沼の水質浄化、私たちの「いい川・いい川づくり」最前線(共著)などがある。建設省土木研究所、九州地方整備局の武雄河川事務所長を経て九州大学教授。



協働と住民参画のもと、五感と心が癒される堀川を求めて！！

平成9年、治水・利水に加え、「環境」が河川法においても重要な位置づけとされました。また平成2年には多自然型川づくりの通達が全国に発せられ、生態系や水循環など自然環境を重視した川づくりを求めています。そのために、流域住民や行政は、将来のビジョンを持ち、総合的、長期的な協働作業を行うことが求められています。次世代へ、より良い社会資本を残し、五感と心に響き、心地よい川の姿を想像し、実現への可能性を探る、かけがえのないチャンスにしたいものです。